	著者名	書名	出版年	出版社	価格（税別）	本文ページ数	やまむろコメント	採用期 1(2007後期) 2(2008前期) 3(2008後期) 4(2009前期) 5(2009後期) 6(2010前期)
1	クリス・アンダーソン	FREE	2009	NHK出版	1890	313	今期の幕開けは新時代を予感させるこの本から。 アトムからビットへ。形ある物体から形なき情報へ。人々が求める〈財〉の性質が劇的に変わったことで、いったいどんな巨大な地すべり現象が発生しつつあるのか？ もう商品の陳列棚も輸送コストも要らなくなった。コスト・ゼロで財を提供することが可能になった。そうやって大きなタガがぱかんとはずれた時、人間という賢いナマケモノは、まことにあざやかな交換経済の新システムを考案してみせる。 グーグルしかり、アマゾンしかり、ウィキペディアしかり。 世界はこうやって日々新しくなってゆく。	6
2	ウィリアム・パウンドストーン	プライスレス	2010	青土社	2520	399	ねだん、というものの不思議。いくらなら売りますか、いくらなら買いますか。刻々と変動する複雑精妙なるコミュニケーション・システム。 これって結局、プライスという指標を用いて人間社会の不条理なおもしろさをあぶりだす営みではないかしらん。経済学の根底に、そんな思想まで深読みしたくなったりします。 まあ、そんなかしこまらずとも、58ページの円筒形と碁盤の目のトリックだけでも、ぜひ。	6
3	岩村　充	貨幣の経済学	2008	集英社	2415	252	お金の価値について、とことん探究してみた。 基本に戻って考えよう。銀行のしくみから、ていねいに説き起こしつつ、金本位制のように貨幣にアンカーが付いている時だけでなく、そのアンカーがはずれちゃっても、お金の価値がメチャメチャにならないのはなぜ？　と問いを組み立ててゆく。 実直な最先端。ホンキで経済学したい人に。	6
4	ニーアル・ファーガソン	マネーの進化史	2009	早川書房	2835	472	え？　進化してんの、というくらいに、昔と今と、人のふるまいは変わらない。 金融関係の就職めざすなら、元祖バブル仕掛け人、ジョン・ローさんとお知り合いになっておかれるとよろしいでしょう。「閣下、私が大きな誤りをしでかしたことは認めますが、それは私が人間だからです。しかし、私の行為のなかで悪意や不誠実に基づいたものは一つもありません」（204ページ）	6
5	瞠目卓生	アダム・スミス	2008	中公新書	880	283	今さらアダム・スミス？　そう、今だからアダム・スミス。 こんなにカタいつくりだけれど、経済本いちばん人気。 ご存知「神の見えざる手」は決してメカニカルな自由競争システム礼賛ではなくて、人間と社会に対する深い信頼と洞察に裏うちされたものなのですと、コチコチの古典をゆっくりじっくり吟味しながら、スミスの意図の深奥へと錘が下ろされてゆきます。 『国富論』の陰に『道徳感情論』あり。 経済イコールお金の動き、そんなカサついた先入観が、いつしかやんわり溶かされて、堅苦しい学問のお話なのに、心なごんでしまう不可思議さ。 ただし！　濫読にはとてもとても不向きです。叡智の女神は根気よく扉を叩く者にしか微笑みません、少なくともこの本の場合は。	4

6	吉川　洋	**いまこそ、ケインズとシュンペーターに学べ**	2009	ダイヤモンド社	2009	270	がっつり経済学したい人に。 これでもかと懇切丁寧饒舌なイマドキの経済入門書と違って、碩学が容赦なく豪速球を投げ込んでくる。限界効用とか購買力平価とか、教科書に載っている基本概念が、どんな時代背景や個人史から生み出されてきたかが立体的に会得できるようになれるので、挑み甲斐はあるけれど、基礎体力がないとキビしいでしょう。 鎌倉の大仏の前で笑ってるシュンペーターさん（46ページ）が、なごみポイント。	6
7	小島寛之	**使える！経済学の考え方**	2009	ちくま新書	777	224	ハルサーニの定理がやっと分かったよと某ゲーム理論家の先生。山室はアマルティア・センに少し近づけた気が。 そんなふうに巨人たちのエッセンスをコンパクトに届けてくれる一話完結入門講義の赴きです。「法哲学」のおともにも最適。 例題、解いてみる？　「ピッチャー１杯分のビールを、形の異なるグラスを持ったｎ人に公平に分けるには？」　早くしないと泡が消えちゃうよー。	6
8	ナシーム・ニコラス・タレブ	**ブラック・スワン　上・下**	2009	ダイヤモンド社	1800	526	7つの魔法のコトバで世界を変えてみせましょう。 「ブラック・スワン」と「七面鳥」、「月並みの国」と「果ての国」、「ベル・カーブ」に「マタイ効果」に「プラトンの性（さが）」。杖をひとふり、えいっ、さあどうだっ!! 比喩の巧みさ、問題の本質を突くするどさと知的ユーモア。統計学のお勉強のかたわら、どうぞ（ニヤリ）。	5
9	レナード・ムロディナウ	**たまたま**	2009	ダイヤモンド社	2100	321	冗談みたいなタイトルだけど、ランダムネスという強敵と大マジメに格闘した科学者たちの果実です。あんな法則、こんなワナ。索引から攻めるのもアリな網羅性がお得ポイント。 そうそう、68ページの３つのドアの選択問題、東工大生38名にトライしてもらったら正答率18%でした。たまたま？？	6
10	ジョージ・A・アカロフ&ロバート・J・シラー	**アニマルスピリット**	2009	東洋経済新報社	2200	275	なぜ？　にしっかり答えてくれる本は、すがすがしい。 たとえば、失業者って、なぜ出るの？　需要と供給モデルで考えれば、働きたい人が多ければ賃金が下がるはずだから、仕事にあぶれる人は出ないはずだよね。 そんな「なぜ？」の８連発。答えられるようになってください。 ちょっとカタめなので、経済学初心者さんは、2-3冊、ほかの経済本で「歯ならし」をしてからどうぞ。	5
11	ハロルド・ウィンター	**人でなしの経済理論**	2009	バジリコ	1500	199	この世に正義なんてないのさ、あるのはトレードオフ、こっちよりあっちのほうが「相対的にマシ」という程度の夢も希望もない選択肢だけなのさ。ふんっ。 正義感あふれる若者スピリットを逆撫でしまくりの挑戦状、受けて立ってみてください。	5
12	リチャード・セイラー キャス・サンスティーン	**実践行動経済学**	2009	日経BP社	2200	370	キーワードはNudge（ナッジ）。ちょっとしたお節介ってとこかな。 行動経済学の本って、ニンゲンってアホだねぇ、ひっひっひっと貧乏神さんが揉み手してるみたいな意地悪さがツキモノなのだけれど、この本は違います。敢然と問題解決型。アホニンゲンがしあわせに暮らすにはどんな制度設計をすればよいのか。いろんなケースに具体的な処方箋が示されます。 結婚の民営化、ってどうです、お兄さん？	5
13	依田高典	**行動経済学**	2010	中公新書	819	239	ちょっとカタめの入門書。 コンパクトな説明は類書のほうが達者かもしれない。でも、153ページからのアディクションの話で、喫煙者と非喫煙者では、どんなふうに時間選好のとらえかたが違うのかをしっかり実験結果から炙り出してくるところは、結論は常識的だけれど、そのプロセスが興味深かった。	6

14	ダン・アリエリー	**予想どおりに不合理**	2008	早川書房	1800	314	小ネタのオンパレード、あたかも回転寿司の如し。 オレってどうしていつも締め切り直前にしか始められないんだろ、とか、ダメカレだからさっさと振っちゃいたいのに、なんで見切りを付けられないのかしらん、とか、日頃のあなたの不合理行動を実験ですっきり証明してみせます。 なんだ、みんなそうなんだと安心できるかもしれないけれど、だからって問題を解決してくれるわけじゃないのね。そこが行動経済学のウィーク・ポイントと見た！	4
15	マッテオ・ モッテルリーニ	**経済は感情で動く**	2008	紀伊國屋書店	1600	302	こちらはイタリア仕込みの行動経済学。話題はほかの本ともかぶるけど、トピックごとにていねいに解説してあるのがメリット。 楽しい実験例が豊富なので、ついつい呑み会などで話したくなるけれど、度が過ぎてウザがられないように。これを「後悔回避 regret aversion」と申します。	3
16	スティーヴン・レヴィット&スティーヴン・J・ダブナー	**ヤバい経済学**	2007	東洋経済新報社	2000	379	行動経済学系の本のなかでも、人ひとりの行動でなく、社会全体の構造をマナイタに乗せて料理しているところが特徴です。犯罪の発生率の劇的減少を中絶の合法化から説明する、というように。 ひとつのテーマの掘り下げがそこそこ深くて、あまりコマギレでないのもGOOD。そして、語り口の軽やかさは、さすがベストセラー。	4
17	竹中正治	**なぜ人は市場に踊らされるのか？**	2010	日本経済新聞出版社	1575	231	踊っちゃダメなんて、そんなヤボなことは言ってません。むしろ、しくみを知って正しく楽しく踊りましょうメッセージと読みました。 ベビーシッター組合（121＆133ページ）とか花見酒（162ページ）とか、定番のたとえ話をじょうずにアレンジしつつ、巷に流布している半可通理解を一刺し。 先行き不安でみんながお金を貯め込んじゃうからデフレになるんだ、じゃあエコポイントで特産品配布なんてケチなことをせず、ゲンナマをどんどん刷っちゃえば？　と説くマネー増発論（129ページ、ただしもっとマジメテイストで書いてあります）がとりわけ新鮮でした。そっか、じゃあ江戸時代の貨幣改鋳も景気刺激策だったのかも、とさっそく自らのフィールドへの応用を試みる影響されやすい山室なのでありました。	6
18	中島隆信	**大相撲の経済学**	2008	ちくま文庫	680	237	相撲協会とは、これすなわち250年も続いている格闘技ビジネスのシステムなり。 実力主義なのに年功序列。神とも崇められているはずの貴重な横綱の給料はたった282万円。年寄株に八百長と数々の特殊性に彩られたこの相撲産業を経済学の視点で分析すると、さてどうなるか。	2
19	ポール・コリアー	**最底辺の10億人**	2008	日経BP社	2310	310	ボトム・ビリオン。世界がかかえる危険なダークサイド。 そこに、データ分析に基づいた政治学で斬り込む。できごとを観察して叙述する従来型スタイルではなく、所得水準と内戦の起こりやすさとの関係、資源の多寡と政権の透明度との関係などなど、各国の諸要素を変数と置いて統計化し、慎重に緻密に、相関関係や因果関係をあぶりだしてゆく。 へぇぇ、こんなことができるんだ、とそのユニークな太刀さばきにひたすら見入ってしまう。地味なつくりの本だけど、方法論と結論の両方がきっちり書かれているのもマル。 熱いスピリットとクールな分析。山室的今期のイチオシ！	6

20	ポール・コリアー	**民主主義がアフリカ経済を殺す**	2010	日経BP社	2310	306	原題：Wars,Guns,and Votes――この本の乾いた殺伐さをよく体現している。 ボトム・ビリオン続編。アフリカ特論といったところ。 世界のダークサイドはどこ？　314-5ページに掲げられた国名リストだけでも見ておきたい。	6
21	シンシア・スミス	**世界を変えるデザイン**	2009	英治出版	2100	218	カラシニコフが勝ったのは？　安くて壊れにくくて、しろうとでも扱いが簡単で、そして必要だったから！ じゃあ、安くて壊れにくくて扱いが簡単で、みんなが必要としてるモノを作ろうじゃないか。織物みたいな携帯光源はどうだろう。素焼きの壺を二重にして間に水を張ればトマトが21日間保存できるよ（ポットインポット・クーラー）。そうやって、いろんな熱意が、使命感が、ものつくりスピリットが、ただいま試行錯誤のまっさいちゅう。 水は運ぶより転がしたほうがラクだよ。がんばれＱドラム！（110ページ）	6
22	渡辺奈々	**チェンジメーカー 1・2**	2005	日系BP社	1600	459	女のひとが多いなあ。ひいふう……18人のうち12人。みんな笑顔がきれいだなあ。 世の中のためになる仕事。そんなのは、才能と運に恵まれたごく一部のエリートさんにしかできないさと思っていたけれど、今日び、意外とそうでもないみたい。国境なき医師団のようなシニセでなくても、いろんなNPOが生まれて、この社会の歪みを正そうと、しなやかに真剣に働いている。もしかして、その仲間たちのなかに、あなたの居場所があるかもしれない。 「地の塩」という言葉を思い出した。	4
23	シルヴァン・ダルニル＆マチュー・ルルー	**未来を変える80人**	2006	日経BP社	1600	281	気のあった２人組が寝袋かかえて地球一周、社会起業家さんに片っ端から突撃取材、という趣向です。 まるでTV番組みたい？　ご名答！　ツッコミは浅いけど、ぱらぱらとながら視聴するだけで、いろんなトライアルのサワリに立ち会える気軽さがお得です。	5
24	西水美恵子	**国をつくるという仕事**	2009	英治出版	1800	297	よく怒り、よく泣く。それがマダム・ミエコの推進力かも。 途上国を支援する世界銀行という仕事。電線に流れている電力まで二大政党が分捕り合戦している（インド235-236ページ）など、生半可な正義感では太刀打ちできない、絡まりもつれた現状に、それでも「何が正しいか」だけを武器に敢然と立ち向かう勇姿がすがすがしい。 いやそんなごリッパなお話はどうもね、というかたには、274ページ、伝統衣装外交のエピソードだけでも。	5
25	駒崎弘樹	**「社会を変える」を仕事にする**	2007	英治出版	1400	245	そんなにゴタイソウな理想や使命感があったわけじゃないんだ。 ベンチャーやってて、ふと行き詰まって、じゃあなんか、金儲けじゃないことやってみっか、みたいな。 ワーキングママたちのために、子供が急病の時に預かってくれるNPO「フローレンス」を立ち上げた駒崎さんの、いきあたりばったり、でも大まじめでアツい浮き沈み人生。 ポコンポコンとキーワードが大きなフォントになってて、そんな工夫も駒崎さんの人生みたいにメリハリがあって◎。	5
26	小暮真久	**「20円」で世界をつなぐ仕事**	2009	日本能率協会	1470	209	テーブルフォーツー。社員食堂でヘルシーメニューを選ぶと、あなたが支払ったうちの20円がアフリカの子どもの給食になります。 先進国の肥満と途上国の飢餓を一挙に解決してしまえという欲張りアイデアをビジネスとして成り立たせてしまった小暮さん。そのサクセスの舞台裏トークですが、パートナーシップの築き方やブランディングの手法など、ふつうの仕事に置き換えてもしっかり適用することができます。 その点、フローレンスの駒崎さんよりクールで論理的かな。	6

27	ナショナル・ジオグラフィック	**地球のハローワーク**	2009	日経BP社	1900	333	表紙の写真に一目惚れ。 人生の豊かさとか、地球の広さとか、めんどーなコリクツなんて、どうでもいい。パラパラめくって運良く「一目惚れ」に出会えたらこの本はあなたのものです。	5
28	福岡伸一	**生物と無生物のあいだ**	2007	講談社現代新書	740	260	ダイナミック・イクイリブリアム＝動的平衡。この着眼から社会というものをとらえてほしくて、リストに加えました。分子レベルで見た私たち生命体は、外界から隔てられた個物ではなく、たまたま密度が高いだけの分子のゆるい淀みに過ぎず、しかも絶えず高速で入れ替わっているそうな。生きているとは、いつも中身を入れ替え続けているということ。 「秩序は守られるために絶え間なく壊されなければならない」 そうなのか！　興奮しました。これは生命体の理解だけでなく、社会や組織といった「人のあつまり」を理解するときにも使える、と。そんなふうに生命体の話としてでなく、社会や国家に応用できないかと虎視眈々たるスタンスで臨むと、社会工学的にも実り多いかと思います。第９章だけでもぜひ。	3
29	福岡伸一	**動的平衡**	2009	木楽舎	1524	240	『生物と無生物の間』が新事実満載の気合いの入ったパワフル講義とするならば、こちらは同じ事実を踏まえつつも、ぐっと気さくな炉端トーク。だから、『生物と無生物の間』のイントロダクションとしても、逆に余韻を楽しむかたちでも行けます。 生命は分子の淀み。なんてユニークで魅力的な世界観。クセになりそう。	4
30	塩野七生	**ローマ人の物語 ハンニバル戦記 上・中・下**	1993	新潮文庫	1200	581	カンネからザマへ。戦術の天才ハンニバルが、ついにその牙を折られる時が来る。あれほどに鮮やかな包囲全滅作戦をあまた成功させてきた男が、まさにその同じ技を敵のスキピオにかけられて。 「ハンニバルの不幸は、優れた弟子が敵方に出てしまったことであった」（下巻83ページ） ドラマティックな記述は一行もない。なのに、男たちの覇気と無念が、ありありと迫る。加えて、政治の要諦についての、本質を衝いた洞察。おじさんたちの愛読書ナンバーワンであるのもうなずける。ただ、そこは社会工学生たるもの、批判的に読まないと（蛇足ながら、この批判的スタンスは、同じくおじさんたちの愛読書である司馬遼太郎先生に対する時も必要）。 紀元前。ほんとにほんとに遠い昔の昔の象部隊のとどろきに思い馳せつつ。	1
31	エリック・ジェイガー	**決闘裁判　世界を変えた法廷スキャンダル**	2007	早川書房	2100	277	1386年フランス。そんな遠いできごとなのに、決闘場の柵に顔を押しあてて、二人の騎士が槍と斧と剣で殺し合うようすが、まざまざと見えてくる。 ストーリーの焦点に立つのは美しいマルグリット。自分に辱めを加えた狼藉者を絶対に許さない。「沈黙を破れば醜聞とさまざまな危険に襲われる」と承知で、敢然と行動を起こした女性。この時代にあって、自らを貫いた稀有な精神が死闘の砂埃のかなたに、まぶしく輝く。 ジャンヌ・ダルクより、凄いかも。	2
32	安達正勝	**死刑執行人サンソン**	2003	集英社	700	237	仕事として人を殺す。その不条理をプロフェッショナルとしての誇りを以て乗り越えていった、たくましき家系の男たちの肖像が、じつにいきいきと提供され、ギロチン華やかなフランス革命の奔騰のまっただなかに首根っ子ごと巻き込まれる。	1

33	中野京子	**怖い絵　1･2･3**	2007	朝日出版社	1800	720	絵は怖い。画家の辛辣な筆が、人の体の醜さを、人の心の卑しさを、これでもかと暴き出してしまうから。 絵は怖い。人の醜さや卑しさをぞんぶんに暴き出した返す「絵筆」で、その絵を描いた画家自身の心に潜む憎悪や偏見をも、容赦なく暴き出してしまうから。 好評につき続編もリリースされたばかり。本編では、ムンク、ゴヤ、ダヴィッドの「マリー・アントワネット」にラ・トゥールの「いかさま師」が、とりわけ怖い。続編では、ブリューゲル「ベツレヘムの嬰児虐殺」、サロメ、そして、ミスター・アルノルフィニの爬虫類の眼。 ぱらぱらめくって、気になった絵のところから中野流のホラー・ワールドへGO!	3
34	深井晃子	**ファッションから名画を読む**	2009	PHP新書	950	271	時代ごとのオシャレさんたち大集合。 どっしりゴージャスな絹のドレスで行くか、さらり自然体の木綿素材か。日傘という小道具だって、バルコニーという場所だって、み～んなオシャレのたいせつな要素なんです。 理想のミューズに、どの時代で出会えましたか？	5
35	サイモン･シン	**暗号解読 上･下**	2007	新潮文庫	629	636	つくる快感。解く快感。あなたは、どちら側の人間？ おなじみ踊る人形から始まって、鍵を独立宣言に隠したり、エニグマしたり、ナバホ族したり、アリスとボブの公開鍵に、今のはやりは量子暗号。 いやもう、人間ってほんと、カクシゴトが好きなんだなあ、とそのために積み上げられた膨大な努力と叡智の大山脈に惚れ惚れ。あきれつつ縦走ください。	3
36	高木　徹	**戦争広告代理店**	2002	講談社	619	405	世論は善悪をハッキリ決めたがる。バルカンの小国ボスニアは、アメリカの広告代理店の力を借りて、敵ユーゴスラビアを悪役に仕立てることに成功する。ほんとうの悪者はいったい誰？	1
37	松本仁一	**カラシニコフ　Ⅰ・Ⅱ**	2008	朝日文庫	600	528	今、アフリカはどうなっているのか。子供でも扱える銃の普及は、崩壊した社会の暴力を加速する。「植民地のほうがましだった」。第１章「少女兵」の話がつらかったら、第３章あたりから。 そして、アフリカメインだった第１部に続き、第２部は南米のコロンビア・パナマへ、アフガニスタンへと飛ぶ。 人が人をとても手軽に殺せてしまうＡＫ47という武器は、世界をこんなにも荒廃させてしてしまうのか。	3
38	DVD版	**オバマ大統領就任演説**	2009	ゴマブックス	1980	92	まずは、そのあざやかなパフォーマンスを堪能してみる。 つぎに、どんな話題、言葉が選ばれ、どう構成されて、かくもみごとな、エモーショナルな演説になったのかを分析してみる。 そんなふうに二度は楽しみたい逸品です。 私にとっては、くりかえしくりかえし、歴史が参照されることが、やはり印象的でしたね。endured the lash of the whip～ムチの痛みに耐え～と黒人の苦難をもほのめかしつつ、Gettysburg(南北戦争)　Normandy(二次大戦)　Khe Sahn(ヴェトナム)。 演説ラストで語られる建国の苦難はin the coldest of months～一年でいちばん寒い月～のできごととして語られ、それが in this winter of our hardship～我々が直面している困難な冬の時代～へと重ね合わされ、聴衆たちが立つのも1月の寒い屋外モール。計算しつくされたシンクロぶりは、さすがです。	4

39	堤　未果	**ルポ 貧困大国アメリカ Ⅰ・Ⅱ**	2008	岩波新書	700	409	サブプライムに不法移民、所得格差が拡大するいっぽうなのは国家がそう仕向けてるから。ワーキングプアはイラクで傭兵と化す。テロより怖い民営化。 ぱんぱんぱんと立て続けに見せられて、ここまでヒドいのか、と唖然。ちょっと片方の局面を強調しすぎだとは思うものの、そのぶん主張はわかりやすい。それがベストセラー街道驀進の理由か。 そして、これが日本でベストセラーになるのは、明日は我が身の危機意識か、それとも、やあいアメリカン・ドリームも崩壊してるんだと野次馬的いい気分になれるからか。 などなど、いろんな読みを引き受けられるパワフルな話題本。	3
40	ローレンス・マクドナルド＆パトリック・ ロビンソン	**金融大狂乱**	2009	徳間書店	1890	388	責任者出てこい！　叫びたくもなるよね。 そこで、この就職難の災厄の、いちばん核心部にいたリーマン・ブラザーズさんをお呼び立てしてみました。 うん、たしかにオレはあそこにいたさ。でも、ムチャやって暴走したのはワンフロア上にいた連中だよ。オレたちは危険を察知してやめろって言ったのに。 当事者にして、この弁。トレーダーさんたちって、とことん懲りない種族のようです。 「わたしたちは彼らから盗んでるのよ」（177ページ）、うれしそうに臨席のジェーンがささやいてくるトレーディング・ルームに、あなたは座りたいですか？	6
41	石井光太	**物乞う仏陀**	2005	文春文庫	650	341	石井光太の視線は、正視するに耐えないものも鋭くえぐってゆく。25歳、6000ドルを握りしめて成田から出発して、カンボジア・タイ・ベトナム・インド……。　救いのない現実の連なりに暗然。	2
42	石井光太	**絶対貧困**	2009	光文社	1500	272	石井光太さん。同じ著者の本が続きますが、私たちがおそらく一生関わらずに「済む」（←この２文字をゴチックとして読んでください）であろう世界を、ここまで深く、たしかに、かつ明確な主張とともに届けてくれる書き手さんを他に知りません。 山室的立ち読みポイントは ・45-46ページ　メイちゃんのお母さん ・145ページ　花売りビジネスモデル ・259-260ページ　売春宿の子供は高学歴	5
43	伊藤洋一	**ITとカースト インド・成長の秘密と苦悩**	2007	日本経済新聞出版社	1700	228	インドには興味津々だけれど、『厄介な～』はゴツすぎてどうもね、というかたには、手軽にこちらをどうぞ。取材の幅や深さは『厄介な～』に遠く及ばないけれど、日本人視点の率直さが良さ。 ほんとに、どうしてインド人はオリンピックでメダルを取れない（むしろ、取らない）んでしょうね。	4
44	アスネ・ セイエルスタッド	**カブールの本屋　ーアフガニスタンのある家族の物語**	2005	イースト・プレス	1800	356	アフガニスタンの首都カブール。当地ではそこそこ裕福な部類に属する一家庭に女性ジャーナリストが寄寓し、ブルカをかぶった女たちと寝食をともにして、ゆっくりゆっくり気持ちを聞き出した。このまことに稀有な取材を、ていねいに再構成することで、男たちの自負、女たちの忍耐のそれぞれが徐々に焦点を結んでくる。タリバン以後の、この社会における暮らしのありよう、幸せのかたちは？ 13人の家族の世話を一手に引き受け、土埃舞う部屋で黙々とタマネギ炒めをつくる黒い瞳のライラの運命にどうか耳を傾けてください。	2

45	松本仁一	**アフリカ・レポート**	2008	岩波新書	700	199	『カラシニコフ』の著者が伝える最新のアフリカ情報。 失敗だらけの国づくり、たくましき中国人商人の展開など興味尽きないが、経済学を勉強している社会工学生なら、下記の２点をぜひ考えてほしい。 ジンバブエの惨状について、著者はインフレ率16万％、ハンバーガー１個が3000万ｚドルと紹介し、それもこれも権力が腐敗し、ムガベ大統領が私腹を肥やしたせいだ、と指弾する。 疑問１　物々交換が常態の国において、通貨を基準にした数値は、どれほど意味を持つのだろうか？ 疑問２　権力者がスイス銀行に隠し口座を持ったくらいで、国の富がすっからかんになってしまうものなのだろうか？	3
46	白戸圭一	**ルポ資源大陸アフリカ**	2009	東洋経済新報社	1995	307	あの灼熱と混乱の大地で、危険な取材をあまた重ね、自ら体験したことだけをたんたんと記録に書き綴ってゆく。新聞記者としての誠実さがしみこんだ一冊。 77ページの左側の女の子、忘れがたい。	6
47	興梠一郎	**中国　巨大国家の底流**	2009	文藝春秋	1680	308	おとなりさんだし、昔っから日本の先生だし、興味しんしんの大国。 近すぎるゆえか、各論林立、全体不明というワナにはまりがちでなかなか良い本にめぐりあえずに来ましたが、さて今期はどうでしょうか。 ジャーナリスティックなとっつきやすさと最新情報が取り柄、と見たのですが。	6
48	ジョージ・フリードマン	**100年予測**	2009	早川書房	1890	368	未来予測なんて、話はんぶん眉唾眉唾。トルコと日本が次の覇権国？　まっさかー。 まあそこは眉唾と割り切って、一緒に地政学ごっこに興じ、宇宙戦争ＳＦ気分を楽しむのがたぶん正解。	6
49	白尾元理	**日本列島の20億年**	2009	岩波書店	1900	100	写真がすばらしい。特に空撮。鳥の目でしっかりと山や川が、どんなふうに地形をつくってきたかが見てとれる。ナンバー20の新雪富士にほれぼれ。 解説が、もっと愛想良かったらなあ。できればイラスト入りがあらまほしい。良い企画なのに、そこがホント惜しい。	4
50	磯田道史	**武士の家計簿**	2003	新潮新書	680	203	埃まみれの古文書から微細にあぶり出される武士家族の収入と支出。維新を乗り切ったつましい暮らし。	1
51	ジョー・オダネル	**トランクの中の日本**	1995	小学館	2500	98	たぶん戦争体験って、こんなふうにしか手渡してゆけないのかもしれない。 ハエが真っ黒にたかったりんご（90ページ）とか、アルミニウムのお盆（30ページ）とか、そして彼の代表作と称えられる96ページの少年……痛みなしでは受けとれない。 写真の重み、それが語るドラマの重みを受けとめつつ、並記されている英語のコメントにも目をとめてください。それもまた、ジョー自身が刻んでいったたいせつなメッセージだから。	3
52	林　望	**ついこの間あった昔**	2007	弘文堂	1500	240	和服のおばあちゃんが茶の間で（！）新品の洗濯機のローラーを回して洗濯物をしぼっている。手前にはタ餉のしたく。そんなレトロ写真に、そう言えば夏休みに洗濯の手伝いで衣類を「のしいか」にするのは、けっこう楽しかったっけ、と著者自身の思い出を重ねる。 ありきたりの写真解説ではなく、個人の記憶と重ね合わせることで、昭和の内ぶところに、より深く抱かれる。	2

53	井上　理	**任天堂 “驚き”を生む方程式**	2009	日本経済新聞 出版社	1700	288	人生のたくさんの時間をお世話になってきた、いやたぶん今もお世話になりつつあるゲームの世界のお話。 京都の花札屋がいかにして世界制覇を成し遂げたか？　なんてまとめると、ありがちサクセスストーリーっぽく聞こえるけれど、どうしてどうして、この会社はタダモノではない。「最先端じゃなくてイイ、枯れた技術でじゅうぶん」「僕らは役に立たないモノを作ってる」、経験に裏打ちされたスゴイ言葉がぽんぽん飛び出してくる。数時間のインタビューをお手軽にまとめたのとは底力の違う、取材の手あつさがあってこそだろう。気合いの入ったルポルタージュである。 そして何より、社長の岩田さんが我らが東工大の大先輩だってことに、アツくなれる……はず！	5
54	石川拓治	**奇跡のリンゴ**	2008	幻冬舎	1300	192	変わりもんの困りもん。津軽弁でカマドケシと呼ばわるそうな。 そのカマドケシさんが、変わりもんであるがゆえに成し遂げてしまった、とんでもミラクル無農薬リンゴ。 徹底的に現場主義、リンゴの木から一歩も離れずに語られる体験談がすがすがしい。なるほど、生態系を殺すことから農業って始まるんだね、と納得。 九年ぶりに白い花を咲かせたりんご園。木村さんと一緒にお花見をどうぞ。	4
55	門田隆将	**なぜ君は絶望と闘えたのか ー本村洋の3300日**	2008	新潮社	1300	237	電車のなかで読まないで。たぶん、涙が止まらなくなるから。 光市母子殺害事件。なぜに自分の家族が？　突然に叩き落とされた奈落の底から、どんな光を頼りに青年は自らの力で未来を開いていったのか。それがいつしか日本の司法制度を変える大きなうねりとなってゆくまで。 一人称ではなく、情に流されない観察者の筆致で、しっかりとあとづけられた、たったひとりの、けれど重い足跡です。静かな熱さに吸い寄せられて、一晩で一気に読みました。	4
56	清原和博	**反骨心**	2009	角川oneテーマ21	740	188	男は踏まれて強くなる。 「いっちょう、ガツンと言わしたる」。少年時代そのままの闘争心に全身を燃え立たせて彼はバッターボックスに立ち続けた。ドラフトに敗れても、死球の嵐に見舞われても、戦力外通告を受けても。 ジャイアンツというチームがいかに特殊なポジションにあるかも、よく分かります。 □	5
57	脇田　茂	**ナビゲート！日本経済**	2010	ちくま新書	798	237	メリットその１　グラフがいっぱい→最新データを使ってリアルタイムの分析 メリットその２　お医者さんごっこ→わくわく　（ぇ	6
58	神永正博	**未来思考**	2010	朝日新聞出版	1680	260	少子化やら格差進行やら、今の日本がどうなってるか。次から次へとグラフをスライドショーのように映し出しながら、そこからどんな結論が引き出せるかを、さくさく語ってゆく。 ん？　今ちょいとゴマかさなかった？　プロのみなさんは、そんな意地悪な構えで聞きましょう。	6
59	蝦蔵＆海野凪子	**日本人の知らない日本語 1・2**	2009	メディアファクトリー	880	100	国際交流最前線。 日々コレ疾風怒濤のナギコ先生とご一緒にどうぞ。	5

60	長嶺超輝	**47都道府県　これマジ？条例集**	2009	幻冬舎新書	819	215	おもしろ本だから、自分でおもしろネタを見つけたもん勝ちです。よーいどん！ しっかし、おっぱい都市とか、がばいばあちゃん課とか、たしかに「これマジ!?」だよなあ。	6
61	もぐら	**うちのとこでは**	2010	飛鳥新社	1365	100	血液型や星座占いよりも、さらにアヤしい県民性トークだけれど、これがウケちゃう世の中ってものを考えるのもよいかも。 ウンチク＆ネタのソースとするもよし、お好きなコを探してくどくもよし。 コミックなので100ページ上限ルールで。	6
62	上原善広	**日本の路地を旅する**	2009	文藝春秋	1680	112	部落のこと、差別のこと。自らの生まれ育った風土のこと。 それをずっと心に引っかけつつ、でもまずは人の話に、その人が生きてきた軌跡にしっかり耳傾けようという旅の姿勢が、とてもいい。 秋田の剥製師、長崎のサーファー。一緒に歩いて、一緒に話を聞いてください。	6
63	迫田　司	**四万十日用百貨店**	2009	羽鳥書店	2100	199	しまんと……水がキレイそう、くらいのイメージしか持ち合わせてなかったけど、日常で使う「モノ」を通して暮らしを伝えようという企画が、鄙びていていい味わい。 おつけもん、鹿の角に、チェーンソーからポットン便所まで、しまんと流、伝授します。	6
64	藤森照信	**藤森照信、素材の旅**	2009	新建築社	2400	247	なんと本のタイトルにまで出しゃばっちゃう濃い個性の作者さん。 現場でも、おとなしく腕組みして観望しているわけもなく、「僕にもやらせて！」 屋根葺き用のコケラ板を割ったり、熱した竹を磨いたり、杉板のロケット噴射 ごぉっ。なかでもいちばんアツいのはトンテンカンテン、真っ赤な鉄から和釘を打ち出す鍛冶屋さんでしょうか。本日の働き、釘４本ナリ。 モノづくりっていうよりも、モノそのものが、ほんとに好きなんだなあ。	4
65	隈　研吾	**自然な建築**	2008	岩波新書	700	208	こんくりーとをやっつけろ！　スローガンに起こしたら、そんな感じかな。 でも、ありきたりの近代文明批判じゃなくて、有言実行、モノをつくってみせるところがカッコいい。 ごつい石に涼やかさを託し、もろい竹にたくましさを担わせ。う一むう一むと現場の苦心を共有するうちに、いつしかクマさんのプロジェクトの一員になって、一緒に無い知恵をしぼっている。現在進行形の熱気がいいね。	5
66	岸　勇希	**コミュニケーションデザイン**	2008	電通	1800	186	コミュニケーションをデザインするための本 あんなヒット例、こんなサクセス例。うきうきと並べてゆくことで、この本自体が電通という企業のリッパなコマーシャルになってしまっているのだから、したたかと言うか。 でも披露される、たくさんのテクニックは、ふむふむなるほどと興味を引くものばかり。 そうそう、「40人40色の恋愛模様」のサイトに仕掛けられた人気投票システムは、我がヒストリアンズでもすでに実現しているではないですか！　やったね♪	4

68	チップ・ハース＆ダン・ハース	**アイデアのちから**	2008	日経BP社	1600	342	なんて、やる気の感じられないタイトル。よっぽど内容に自信があるのかしらん。 単純明快、意外性、具体的、信頼性、感情に訴える、物語性、ぜんぶで六つですよ、みなさん、覚えましたか？ Simple Unexpected Concrete Credible Emotional Story——頭文字をつなげると、ほうら。 いや、覚えるほどのこともないあたりまえの要素。でも、これでもかと挙げられる事例のおもしろさに、ついつい読みふけってしまいます。 153ページ「茶色い目、青い目」の実践例が心にしみました。 なんで数学の勉強しなくちゃならないの、と塾で生徒に訊かれても困らないようになりたければ260ページへGO！	5
67	ポール・アーデン	**プレイ・ジョブ**	2008	サンクチュアリ出版	1200	144	33ページがエロティックでステキ☆	5
69	エドワード・ゴーリー	**ギャシュリークラムのちびっ子たち**	2000	河出書房新社	1000	54	おとなの絵本は　こわくて　かなしい	5
70	山口　晃	**山口晃作品集**	2004	東京大学出版会	2800	80	ルーペしおりは飾りじゃない！ こまかく緻密に組み立てられた「もうひとつのニッポン」。 古いような新しいような、現実のような絵空事のような。しばしの時空散歩をどうぞ。	5
71	中村佑介	**Blue−中村祐介画集**	2009	飛鳥新社	3800	176	いつまでも、夢をみていたいあなたに——	5
72	ヤマザキマリ	**テルマエ・ロマエ**	2009	エンターブレイン	714	100	古代ローマ。どーんと気合いの入った歴史浪漫かと思いきや、お風呂しか舞台にしないもんね、という人を喰った設定がすてき☆ 思い込みの激しすぎるルシウス君、かわいがってやってくださいませ。 コミックなので100ページ上限ルールで。	6
73	和田　竜	**のぼうの城**	2007	小学館	1500	332	のぼうさま。戦国時代の終わりに、ぬうっと現れ出でた主人公の茫洋さ加減がスゴい。 その類例のない人物造型を初めからゆっくり味わうのもよし、253ページからのクライマックスシーンをちょっと覗くだけでも。 ニュータイプの歴史小説、その方面では、ただいま大ブレイク中。	3
74	和田　竜	**小太郎の左腕**	2009	小学館	1575	311	のぼうさまに惚れたなら、こちらもどうぞ。 茫洋としたヒーロー＆破天荒なストーリーを楽しんでもよし、戦国時代の男ならこう行動するはず、と作者さんがあーうー苦しみつつ出した解答に、そうかなあと別解さがしをしてもよし。 「大殺し玉」降り注ぐクライマックスシーンは、ストレス解消に持ってこいでござる。	6
75	北沢　秋	**哄う合戦屋**	2009	双葉社	1470	294	「信長の野望」的な戦略モノとして始まって組織統率論になり、男が生涯に目ざすものとはの話になり、といろんな風合いを見せてくれるのが楽しい。あからさまなダメ人間はほとんどおらず、各人それぞれに自分の分を全うしようとしているという世界のつくりかたも好もしい。 表紙の一徹くんがあなたの心を揺らしたらどうぞ。	6

76	山田芳裕	**へうげもの　1～10**	2010	講談社	560	100	数寄（すき）の窓から覗いてみると――ご存知戦国時代ストーリーなのに、全然ご存知じゃない世界になってて、いやびっくりたまげた、おそるべき構成力と描写力。 とりわけ序盤で消えてしまうけど、信長さんのトンデモなさにぞっこんです。ただし美人やめんこい娘は登場しません。だからって「びーえる」ではありませぬ。 コミックなので100ページ上限ルールで。	6
77	冲方　丁	**天地明察**	2009	角川書店	1890	475	しっかり調べて、じっくり人物像を立ち上げた重量級歴史小説。 渋川春海さん、暦をつくった人。 江戸時代人と算法勝負をしたいかたは、21ページと143ページと236ページへ直行！	6
78	万城目　学	**プリンセス・トヨトミ**	2009	文藝春秋	1649	494	どかんと大阪が炸裂する。 やるなあ！　お話だもの、ここまではじけてくれなくっちゃ。ひょうたん、ってのがまた人を喰ってて痛快だね。 あまりのスピード感に、500ページを一気読みしてしまいました。	6
79	森見登美彦	**有頂天家族**	2007	幻冬舎	1500	353	この世の中は天狗と狸と人間から成り立っています。 三択だよ、って言われたら、何になりたいですか。 ゼッタイ狸を選びたくなる。狸になって偽叡電に化けて寺町通りを爆走して「それは阿呆の血のしからしむるところだ」って呵々大笑してみたくなる。たとえ狸鍋にされても。きゃーッ。 章ごとに独立でも読めます。	3
80	村上春樹	**1Q84　BOOK1・2・3**	2009	新潮社	1800	1038	青豆さんステキ☆ 第１章の首都高の非常階段をハイヒールで降りるところまでで「キター」という感覚に襲われなかったら、そのあとの1000ページにエネルギーを費やしてもムダでしょう。 ブンガクってこちらが向こうに合わせるんじゃなくって、向こうがこちらに合わせてくれるもんだと思うから。それは、２つの月が浮かぶこの世界の隠しテーマでもあります。	5
81	小川洋子	**猫を抱いて象と泳ぐ**	2009	文藝春秋	1779	368	平凡に過ぎ去った一日の終わりに。あるいは、心がひりひり痛い夜に。 ちいさくあることのたいせつさ、強いものより善なるものを求めたいきもち。 象のインディラと猫のポーンが、チェスの名手リトル・アリョーヒンと奏でるピアニッシモの精妙なシンフォニー、そっと耳傾けていただければさいわいです。	6